

---

# 大乱逃走中 ダイラントウソウチュウ

死神魔姫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大乱逃走中 ダイラントウソウチュウ

### 【Nコード】

N6927X

### 【作者名】

死神魔姫

### 【あらすじ】

なんと今回作者が書く逃走中はスマブラ×逃走中ではなく、大乱闘×逃走中！！

作者+マスハン+クレハン+ がミッションを出していく！その+とは！？

マリオ「うおー！ハンターが\*\*して来る！！」

ルイージ「でも僕たちも\*\*できるよ！！」

マリオ「そういえばそうだったな・・・」

さあ\*\*に入る言葉とは？それは見てからの楽しみ！！！！

始まりです・・・(前書き)

死神魔姫こと作者です！小説書くのは初めてなのでおかしい所もいっぱいあると思うので、できるだけがんばります！  
では、スタートです！

始まりです・・・

作者「よしっ！逃走中はじめるぜ！！」

マリオ「めんどい・・・」

作者「いや、ちよっ、まてよ！君の第一声めんどいって・・・」

マリオ「だつてさー、これ作者が初めて書く小説だろ。絶対ためし書きだろ。」

作者「ち、ちがうよ！」

マリオ「絶対ためし書きだつて。だつて作者の友達に催促されて書いたんだろー？」

スマブラメンバーたち「そーだそーだ！」

作者「や、やめてくれー！悲しくなっちゃうじゃないか！」

ルイージ「でも兄さん。この小説のタイトルル気にならない？」

マリオ「ああ、あの大乱つて入っていることか？」

ルイージ「そうそう、あの部分も気になるし、作者もかわいそうだからやってあげない？」

マリオ「急にか！まあ金が入るなら・・・」

作者「もちろん！あげますとも！（マスハンのポケットマネーですけどね）」

マリオ「じゃあ仕方がない。やってやるか！」

作者「ではでは、登場人物設定とルールを次にかくぜ！」

始まりです・・・(後書き)

ふう・・・やっと1話書き終わった・・・

実はこれ書くのに1時間もかかったんですね・・・

あああつ、もっと書く速度を速くしないと・・・

## 逃走者紹介1（前書き）

やっと2話目か・・・

本当に終わらせれっかなこれ・・・

まあいい！がんばるぜ！



## 逃走者紹介 1

逃走者たち 1

マリオ

いつもクッパにさらわれたピーチをルイージと一緒に助けている。しかしマリオによれば、ルイージが居なくても助けられるとか。今回は、逃走を成功させて賞金でグアムに行くとか。

ルイージ

皆からネガティブキャラっぽいと言われている。

足はそこそこ速いのだが、運が作者が引くぐらい無い。

実は作者はマリオよりルイージの方が好き。

ピーチ

キノコ王国のお姫様。

いつもいつもクッパにさらわれては、マリオとルイージに助けられている。

数少ない女子の逃走者。

クッパ

毎回毎回ピーチをさらっては、マリオとルイージにボコられている。

この前なんかはさらう前にピーチにボコられたらしい。

足の速さはネスとリュカと同じくらい。

ドンキーコング

バナナが大好きな森のヒーロー。

お供にディディーコングを連れている。

体の大きさの割に足は速い。

ディディーコング

赤い帽子とベストがトレードマークのチンパンジー。

力自慢のドンキーに対しスピードと身軽さが売り。

足はピカチュウより少し遅いぐらい。

ヨッシー

マリオとルイージのペット的な存在。

カービィとは大食い仲間。

足はあまり早くはないが卵に入ればそうとう速い。

ワリオ

いつもワルイージと一緒に手を組んではマリオたちの邪魔をする。

実は自分の会社を持っている。

足は結構遅い。

リンク

ゼルダとは片思い中の剣士。

いろいろな武器を持っていてとくにマスターソードがお気に入り。

足は以外に遅め。

ゼルダノシーク

魔法を使い二人の姿を扱うことができる。

今回は両方の姿を使うらしい。

足はシークの時はトップを争う速さ。

ガノンドロフ

見た目は顔の怖いおじさん。

しかし本当はリンクの宿敵。

足は見た目の通り鈍足。

トゥーンリンク

一言でいうと、一回り小さくなったリンク。  
いつもガノンに小僧といわれている。  
足はリンクよりも確実に早い。

ゼロスーツサムス

今回はパワードスーツが邪魔だったらしいので脱いできたらしい。  
職業は賞金稼ぎ。  
足はシークと同じくらい。

ピット

すごく生意気な天使。  
今回はマスハンの能力で長い間飛べるようにしてもらった。  
足は普通だが、空中での速さはピカイチ。

アイスクライマー

ポポとナナ二人で逃走する一風変わった逃走者。  
ポポかナナどちらかが捕まれば逃走失敗となる。  
足の速さは微妙。

ロボット

すべて片言でしゃべるロボット。  
Mr.ゲーム&ウオッチとは片言仲間。  
足の速さは超平凡。

カービー

ププランドを救った英雄。  
しかし本人はそんな自覚はない。  
こっちもマスハンの力でたくさん飛べる。

## 逃走者紹介1（後書き）

よしっ！これで逃走者紹介前半終わり！  
次は逃走者紹介2！

## 逃走者紹介2（前書き）

今週の月曜日、女友達と一緒にユニバに行くぜい！  
というか更新の割合が一週間に一回になっている・・・  
せめて一週間に2話は書かないとやばいな。  
ともかく3話目スタートオ！

## 逃走者紹介2

メタナイト

一頭身なのにかっこいいププブランドの戦士。  
関係ないが作者はメタさんの使い手。  
足はシークよりちょっと遅い。

デデデ

巨大なハンマーを持つ、ププブランドの大王。  
容姿は腹巻をまいた青いペンギン。  
足は、はつきり言って鈍い。

ピクミン&オリマー

ピクミンが居ないとほとんどただの人。  
今回は5匹まで連れ歩きOK。  
足は平均的。

フォックス

やとわれ遊撃隊、スターフォックスのリーダー。  
ウルフとは仲が悪い。  
足はとっても速い。

ファルコ

スターフォックスの一員。  
あだ名は焼き鳥。

足は速そうに見えて実はあまり速くない。

ウルフ

いつもいつもフォックスたちと喧嘩をしている。

特にファルコとはとても仲が悪い。  
こちらにもイメージほど素早くない。

キャプテン・ファルコン

レーサーでもあり、一流の賞金稼ぎ。

仲間同士だからかサムスとは仲がいい。

足は2番目に速い。

ピカチュウ

全ポケモンシリーズに登場する人気ポケモン。

一応性別は らしい。

隠れるのも、逃げるのも得意。

ポケモントレーナー（リザードン）

今回はポケトレは参加せず、手持ちの代表としてリザードンが選ばれた。

言葉はマスハンがどうにかしてくれるらしい。

足は巨漢の割に速い。

ルカリオ

傷つくほどに強くなる逆境ファイター。

見た目は青い狗。

足の速さは速くもなく遅くもない。

プリン

歌っては誰かを眠らせる困った子。

今回はうたうは使用禁止。

足はダントツビリ。

マルス

顔のかわいい腹黒王子。  
ピットとは仲が悪い。  
足は多分早い。

アイク

グレイル傭兵団の団員。

お肉が好きなどかわいい所もある。  
賞金の使い道は「お肉！」らしい。

ネス

とっても黒い（中身が）12歳の少年。  
特におっさんグループに黒い発言をしまくる。  
この前もネスによってガノンが落ち込んでいたらしい。

リュカ

先輩を習って（？）黒くなった子。  
しかしポケトレには絶対に黒い発言をしない。  
先日もリュカによってスネークが心に大きなけがを負ったらしい。

Mr.ゲーム&ウオッチ

ロボットとは片言仲間。

任天堂の一番の古株。

足の速さは謎。

スネーク

作者の友達の中でのスネークのあだ名は「すね毛」（スネークファ  
ンの人すんません）  
この前仕掛けておいた地雷にリュカがはまりボコられた。  
足は結構遅い。



ソニック

音速で走るハリネズミ。

言葉の中にときどき英語が混じる。

足はダントツ一位。

## 逃走者紹介2（後書き）

やっと書き終わった・・・  
次はルール説明だぜ！

## ルール説明っ！！（前書き）

何とも不吉な字・・・ 4つてなんか不吉な感じがする気が・・・  
まあ俺の気のせいかな！今回もポジティブに！！  
（ていうか作者、！マーク好きだな）

ルール説明っ！！

マスハン「よし全員集まったな。」

マリオ「なーなー早くルール説明しろよコノヤロー。」

マスハン「神にそんな口をきくな！ま、まあいい。よしっ、クレハン出番だ！」

クレハン「なんで俺に押し付ける！お前がやれ！」

マスハン「しかたがないな・・・じゃ簡単にルール説明をするぞ。まあ簡単に言えば攻撃できる感じになった逃走中だと考えてくれればいい。」

ネス「おいおっさん。そんな説明でわかると思うっ？」

マスハン「スイマセン・・・」

クレハン「仕方ねーなー。俺が説明してやる。まず今回のハンターは特別製だ！」

ルイーダ「どこの部分か？」

クレハン「一つ目は軟な攻撃じゃ場外をさせられないようにしてる。」

ヨッシー「いや、軟な攻撃とか以前に攻撃できないじゃないですか。」

クレハン「いや、そこがこの逃走中の特徴だ。なんとハンターに攻撃してもいい特別ルールを作った！」

全員「おおー！」

クレハン「しかしそんなんじゃないみんな逃走成功しちゃうからな。もう一つハンターには最大の特徴がある！！！」

デデデ「それはどんな特徴ゾイ？」

クレハン「それはな・・・攻撃すると攻撃した奴の長所と攻撃した技をコピーされちゃうんだ。」

ナナ「それどーゆー意味？」

クレハン「たとえばソニックが攻撃したとする。そうするとハンターの足がソニック並になるんだ。」

クツパ「そんな・・・じゃ、じゃあワガハイが攻撃したら？」

クレハン「力が強くなってももちろん攻撃した技もコピーする。」

クツパ「そ、そんな・・・」

ピーチ「でも攻撃したら少しは時間は稼げるんでしょ？」

クレハン「ああ。まあハンターにとってもだがな。」

ゼルダ「えっ！じゃあハンターも逃げるのを妨害してくるんですか

!？」

クレハン「もちろんだ。」

リンク「ということはむやみに攻撃するのも少し考えようがありませんね・・・」

クレハン「ま、そういうことだな。あとはコピーした技と能力は特別なことがない限りコピーしたままになる。」

プリン「技が使えることが有利なのか不利なのかわからないでしゅ・・・」

ピット「じゃあ僕たちも飛べるんですかー？」

クレハン「もちろん。だが背中にジェットをつけたハンターも用意しておいたので油断は禁物だ。」

メタナイト「こちら也使いどころが難しいな・・・」

カービー「ほんとだ！。走って追っかけてくるハンターに気を取られて空に逃げた途端捕まっちゃうかもしれないポヨ・・・」

クレハン「説明はこの位にしておいて、次はオープニングゲームだ。」

ルイージ「絶対逃げ切る！（オープニングゲームで）」

## ルール説明っ！！（後書き）

次やっとならぬと逃走が始まる・・・

ここまで来るのに相当時間かかったな・・・

後宣伝！ゆうらが書いてる小説も見てやってくれい！

オープニングゲームウウウ!!! &lt; ; 1 &gt; ;

クレハン「よし、オープニングゲーム始めるぞー。」

ウオッチ「トコロデナンデマスハンデハナク、クレハンガシキツテイルノデスカ？」

クレハン「んーなんかこの前チ○ルチョコを3箱ぐらい買って、ロードオブザリ○グをツ○ヤで全巻借りてたから多分チ○ル食いなから見てんじゃねー？さっきどっかいったし。」

マリオ「あのかそ神、何仕事サボってるんだよ!!!」

クレハン「あーもー、ともかく始めるぞ!!!」

ピット「質問なんですけどー、何分逃走するんですかー？あと一秒何円ですかー？」

クレハン「今から教えるから黙れ。今回の逃走時間は180分。一秒300円だ。」

ロボット「トイウコト八合計324万円トイウコトデスネ。」

クレハン「ま、そういうことだな。あとはステージだが5つの国に分かれていて北にある国は、天馬ノ国、東にある国が、大蛇ノ国、西にある国は、一角獣ノ国、南にある国は、飛龍ノ国、そして中央にある国、まあ一番大きい国だがそこが巨龍ノ国だ。」

メタナイト「どうやって移動をするのだ？」



クレハン「巨龍ノ国からすべての国へは橋が繋がっている。あとそのほかの国は、隣同士の国としかつながつていない。あ、それと空飛べる奴はつながつてない国同士を行き来するとその時点で失格となるから注意しろよ。」

カービー「わかったポヨ！」

クレハン「そうだ、忘れるところだったがこれを全員に渡しておくぞ。」

ルイージ「これは・・・地図と自主コイン1枚か・・・」

クレハン「あと迷うことはないだろうが、国にはその国の名前に入っている怪物の銅像が置いてあるからそれを印にしてくれ。」

全員「はい」

クレハン「じゃあほんとにオープニングゲーム始めるぞ。まずくじを引け。」

さあ一番はいつたい・・・？

ルイージ「僕だね。」



セーフ！

ルイーダ「やったー！じゃあみんな頑張ってねー。

マリオ「うおー、なんで、なんでルイーダが引かないんだー！」

ピーチ「これでこのケーキとあんぱんは私のものね。」

どうやらルイーダが引くか引かないかで賭け事してた模様・・・

次はいつたい誰が引く？

次回へ続く・・・

オープニングゲームウウウウ!!! &lt; ; &gt; ; (後書き)

なんと皆さんのおかげでもう少しでアクセス数が500となります!  
これからもがんばっていくぜい!

オーブニングゲームウウウウ!!! &1t;2&gt;;(前書き)

どうも死神です。俺のプロフィール見てくれた人は知っているかと思っけど俺の名前は『しにがみ』ではなく『しがみ』ですよ!

まあそんなことはともかく6話目に『ー』!!!

オープニングゲームウウウ!!! &1t;2&gt;

さあはずれを引く候補ダントツ1位だったルイージがあたりを引き  
皆は焦り始め・・・

マルス「ま、まあこの王子がはずれをひくわけないよ・・・」

マルスが二番目のようだ・・・

アイク「ひくんじゃないか？」

マルス「ひどいよ！アイク僕は絶対にひかないよ！」

マリオ「むぶくく・・・あっはっはっはー！！！」

マルス「なんで笑うんだよ！！！」

マリオ「おまえきずいてないみたいだけど前のルイージみたいにな  
ってんぞ！！あははははー！」

マルス「う、うるさい！絶対引かない！よし1番を引く！」

じゃら・・・

セーフ！・・・と思いきや・・・

マルス「うわ！！なんか出てきた・・・なになに、（これをだれかになげるとそいつの足が遅くなるぞ！ついでに逃走者にも投げられるぞ！）・・・か、これどう見ても蜘蛛の巣だよね？まあいいやこれで・・・ふふふ・・・」

マルス蜘蛛の巣ゲット！！！！

マルス「じゃあねー」

マルスは向こうの方へと消えていった・・・

すね毛「次はだれだ？つて誰がすね毛だ！！」

作者「ごめんごめんタイプミスったんだよ。（嘘）」

ソニック「次は俺だぜ！！！！」

逃走成功候補一位のソニック、何番を引くのか！？

ソニック「よしっ！！7番を引くぜ！！」

ソニックの運命は・・・？

ぐわしゃああん！！！！！！！！

ハンターが放出された!!

ソニック「オーマイガット!!はずれかよ!でも俺がいたら迷惑になる!だから捕まってやるぜ!」

ピーー

ポンッ

クレハン「ソニック逃走失敗だぜ!」

ピロリロリン

ネス「うるさいなもう!なにになに・・・ソニック確保・・・ソニックさん捕まったんだ・・・珍しいな・・・」

ピーチ「ついに逃走開始しましたわね。」

ピカチュウ「隠れるとこさがしとこつと。」

プリン「ベンチの下ならばれないでしゅかね?」

カービー「てんまのくににいくポヨ!」

スネーク「巨龍ノ国が一番広いようだがあえて飛龍ノ国に行くとするか・・・」



それぞれ隠れ場所を見つけたり移動したりしている模様・・・  
一方監視塔では・・・

作者「ついに始まったなー逃走中。俺的にはおじさんグループの中の誰かが引くと思ってたんだけどなー、予想外れたぜ。」

クレハン「まあいいんじゃないのか？それより一つ目のミッション、どうするんだ？」

作者「それなら助っ人を呼んでるぜ？ま、俺の友達だよ。」

クレハン「どんだけミッション作るの面倒なんだよ！まあいいか。」

ついに次回逃走劇が始まる！

オープニングゲームウウウウ!!! &1t;2&gt; ; (後書き)

皆さん感想お願いします。

ではまたねー！

第一ミッション・・・「紅茶とコーヒーどちらがお好きですか？」（前書き）

今回の題名全然意味わかりませんよね？これは今回のミッションに  
関係していることなんで全然気にしなくていいです。

あと出来れば感想ください。お願いします。

第一ミッション・・・「紅茶とコーヒーどちらが大好きですか？」

さあついに始まったゲーム、生き残れる逃走者はいつたい？

マリオ「あー暇だな。逃走する場所広い割にはハンター3体って。絶対生き残れるじゃん。」

余裕のマリオ、しかしこの逃走場所の広さがあとあと問題に・・・

リンク「開始から10分たったけど全然ハンターこないな！。これなら生き残れるかも・・・」

しかしそんな余裕のリンクの前に・・・

リンク「うわっハンター!？」

気を抜いていたリンク、攻撃も加えられずに・・・

ピーーーーー

ぽんっ

リンク確保!

リンク「気抜いてたからか・・・」

ピロロロリンッ

メタナイト「ミッションか？なになに（リンク確保）・・・か。これだけ広いというのに開始十分で捕まるとはそうとう気を抜いていたのだな。」

カービー「空ってどんなのだろ？今多分お空のハンターいないみたいだし行ってみるポヨ！」

伝えるの忘れてましたがハンター3体というのは陸2、空1ということですよ。

カービー「・・・普通に空だ・・・ポヨ・・・」

その頃監視塔では・・・

クレハン「そろそろミッション出した方がいいんじゃないか？」

作者「ちよつと待て、今いいところなんだ！」

クレハン「何ゲームしてんだよ！ほんとどつするんだよ・・・」

ぼんぼん

クレハン「だれだ？いま俺の肩たたいたやつ？」

（クレハンの肩ってどこなんだ？）

「???」「紅茶とコーヒーどちらが大好きですか？」

クレハン「えっ?ど、どっちかというとコーヒー・・・」

「???」「かしこまりました！」

作者「よしっ！クリアだ！で、クレハン要件って何？」

クレハン「聞いてなかったのかよ！ミッションのことだよ！」

作者「ああそれだったら助っ人を呼んだはずなんだが・・・見なかったか？」

クレハン「そういえばさっきなんか紅茶かコーヒーがどつたらこつたらって聞いてきたやつがいたけどそいつのことか？」

作者「たぶんそれだ・・・どこ行ったか知ってるか？」

「???」「ただ今持つてきました！」

作者「おう！モカどこ行ってたんだ？」

モカ「クレイジーハンドさんのコーヒーを注ぎに行っていました！どつぞクレイジーハンドさん！」

クレハン「?わいい!..お、おうアリガトウ・・・」

作者「モカ、ミッション手伝ってほしいんだけどいいか?」

モカ「はい、いいですよ。かわりにそのあと逃走者の皆さんのもと

へ行って観察してきてもよいですか？」

作者「ああ、いいぜ。じゃあこれをみんなに送ってくれないか？」

モカ「かしこまりました！」

ピッピッピー、送信カンリョウシマシタ。

モカ「できました！」

作者「ありがとう、あとはこのミッションを逃走場所で見張っておいてくれ。じゃ、俺は寝る……」

モカ「判りました！」

クレハン「居眠りすんじゃねー！しかたねえな！。そのモカとかいうやつここに乘ったら向こうに転送されっから。」

モカ「では行ってまいります！」

逃走場所へと戻る……

ピロロン！

クツパ「なにごとだ！また捕獲なのか？」

メール……（どうも死神くんの代わりに来たモカというものです！これからミッションの内容を言いますので聞いていてください！

残り時間140分になるとハンターたちが1分ごとに分裂を始めます。それを阻止するためには、ハンターに攻撃を2回当てないといけません。あと同じハンターを同じ逃走者が攻撃すると無効になりますのでご注意ください。攻撃を二回当てたハンターは分裂しなくなりません。もちろん攻撃をすればハンターは能力をコピーしてきますし、捕獲しようとしてもします。それと広いステージではハンターが見つけれないのである便利な道具を5個宝箱に入れていろいろな場所に置いたので見つけた時は使ってくださいね。その道具の電源は残り時間140分になると強制的に落ちますのでそこらへんは覚えておいてください。ではお知らせは終了です！皆さん頑張ってくださいね！)

クッパ「なにー！ハンターが分裂だと！で、では残り時間145分になったらハンターの数・・・56体だと！これは何とか阻止せねば！」

シーク「これはやばいね。ハンターが5分で53体増えるということだよ。行くとするか・・・」

ピカチュウ「うごいたら見つかりそうだしハンターが通りかかったら攻撃しようかな・・・」

ルイーダ「やばいやばいやばい！どーしよー！これは行くしかないよね？」

いつもミッシェンに行かない人たちもいくようだ・・・

残り逃走者・・・35人

ミッシェン残り時間・・・20分



ハンターの分裂を止めることはできるのか？

第一ミッシヨン・・・「紅茶とコーヒーどちらがお好きですか？」（後書き）

モカというのは俺のリア友です。小説では女ですが、現実は違うかもしれませんねー。俺は知ってますよ？ということとで次回で第一ミッシヨンの結果出ます。多分・・・

## 第一ミッション・・・途中経過（前書き）

今回の逃走中は今年中に終わらせるつもりだ！だから更新速度上げ  
たんだぜ？

でも今週の木曜日からテスト週間なんだよな！。まあ更新速度は落  
とさないつもりですのぞ！

## 第一ミッション・・・途中経過

アイク「ハンター・・・もぐ・・・見つからない・・・むしゃ・・・  
なあ・・・」

お肉を食べながら歩くアイク。しかしそんなところに・・・？

アイク「うおっ！ハンター見つけ！しかもまだばれてない！あと残り時間15分ぐらいしかないし誰か呼ぶか・・・」

ピッピッピッピ・・・プルルルル・・・

一体アイクは誰に電話をかけたのか？

ピロリロリン！

ファルコン「ん？誰かから電話だな・・・もしもし。」

ファルコンのようだ・・・

アイク「もしもし？急にだがミッション参加するか？」

ファルコン「ミッションか？もちろんだ！」

アイク「じゃあ今すぐ一角獣ノ国の銅像前に来てくれないか？今俺の近くにハンターが居るんだ！」

ファルコン「本当か！ちょうどそこまで近いし今すぐ行く！」

アイク「早く来てくれよ。今少しずつ移動しているし・・・」

ファルコン「わかった！じゃあな！」

ぷっつ！ぷーぷーぷーぷー

アイク「早く来てくれよ、ファルコン・・・」

10秒後・・・

すたたたた・・・

ファルコン「おーいアイク！」

アイク「やばい！大きい声出すな！」

しかし今の声で・・・

アイク「やばい！こっちに来るぞ！」

ファルコン「すまん！」

アイク「どっつするっ？」

ファルコン「攻撃するしかないだろう！いくぞ！」

アイク「じゃあ、ハンターがちかずいて来たらせーので行くぞ！」

ファルコン「わかった！いくぞ！せーの！」

アイク「天！空！」

ファルコン「ファルコーン！パンチ！！！」

どっつー！！

ハンター「ダメージ50%、コピー、天空、ファルコンパンチ、あと3秒で行動開始始めます！」

アイク「今のうちに逃げるぞ！」

ファルコン「OK！」

アイク「ハア、ハア、ハア、ここまでくれば大丈夫か・・・？」

アイクたちは今のハンターから逃げるために巨龍ノ国の近くまで移動。

「ファルコン「俺的にハンターしゃべったのが一番びつくりだな・・・」

アイク「最初3秒も硬直するのかって思ったけど今冷静に考えてみたらあのハンター、俺とお前の技受けてやっとなら3秒止められるだけなんだな・・・これは相当やばいな・・・」

「ファルコン「そうだな・・・」

ピロリロリン！

ルカリオ「なんででしょうか？えーと・・・」

メール・・・（途中経過、現在、アイクとファルコンの活躍により1体のハンターの分裂を阻止！しかし攻撃したためそのハンターは、アイクの天空と、ファルコンのファルコンパンチをコピー。

現在残り時間10分  
残りハンター数3体（阻止1体）以上  
！）

「マリオ「おお！これで残り2体じゃん！俺も行った方がいいかな・・・」

次回で第一ミッション終了!! (前も言ったような・・・?)

ここからはおまけタイム

モカ「みんな大変そうですねー。さつきもハンターさんに出会いま  
したし・・・」

???「ねえねえその御嬢さん。ぼくと一緒に遊ばない?」

モカ「だ、誰ですか!」

ピット「僕だよ、ピットだよ! ねえ行こうよー。」

モカ「え、いや、ちょっと・・・だれかたすけてー!」

???「おらっ! 手榴弾!」

ぼむっ!!!

ピット「わっ! やばい! にげよー」

スネーク「大丈夫ですか? 御嬢さん?」

モカ「ハイ、大丈夫ですっ!??」

はいここでカンがさえてる人は判ったかもしれませんが、モカはス  
ネークのことをもちろん知りません。

まあいえば急に羽が生えた子にナンパをされ、そしてピチピチのな  
にかを着た外国人のおじさんが助けに来たということです。





## 第一ミッション・・・途中経過（後書き）

今回はスネークのかわいそうなエピソード入れてみました！

## 第一ミッション・・・終了(前書き)

えーテスト週間なんですけど、んなもん無視で投稿です。

## 第一ミッション・・・終了

トウーン「うあー！ハンター少なくてラッキーとか思ってたの間違  
いだったー！全然見つからないー！」

ハンターが見つからずに嘆くトウーン、しかしそこに・・・

トウーン「あれ？これって宝箱？開けてみよつと。」

中に入っていたのは・・・

トウーン「んー何々？（千里〇の薬）これってモン〇ンに出てくる  
あれじゃん！！まあいいや。効果は？」

（千里〇の薬・・・これは電源とかないので第一ミッションで使わ  
なくてもいいです。効果はこの薬を飲むと30秒間ハンター一体の  
いるエリアがなんとなくわかります。）

トウーン「へー、これは残していてもいいんだ・・・でもハンタ  
ー見つけないといけないし飲も！」

ごくっ！！

トウーン「えーと・・・今ハンターが居るのは・・・一角獣ノ国が  
・・・ここ天馬ノ国だね・・・遠いから誰かに頼も。」

プルルルルル！

シーク「はいもしもし？あつ！トウーン？」

トウーン「はい！あのすいません・・・今どこにいますか？」

シーク「えつとね、今は一角獣ノ国にいるけどどうかしたの？」

トウーン「ちょうどよかった！実はハンターがいる場所が分かったんですけどここから遠いんです。シークさん、頼めますか？」

シーク「いいよ！どこにいるの？」

トウーン「シークさんが居るエリアです。」

シーク「わかったよ。じゃあ！」

ぷつつ、ぷーぷーぷーぷー

トウーン「僕が言ったら間に合わないし・・・シークさん誰か誘っていくのかな？」

シークの心配をするトウーン、そんなところにハンターが！

トウーン「うわあ！ハンターだ！このエリアにも居たの！？」

なんと不運なトウーン、さっきのアイクとファルコンの攻撃によって技をコピーしたハンターに出くわしてしまった！しかしそんなこ

とはトウーンは知らない！

トウーン「でもこれで阻止できる！爆弾なg・・・」

ハンター「テックウ！」

トウーン「ひゃー！うわ！動けない・・・」

トウーンハンターの攻撃をもろに受けてしまった！なすすべもなく・・・

ぼん！

トウーンリンク確保！

トウーン「そんなー！？ハンターってあんなに積極的に攻撃してるの！？」

トウーンを捕まえたハンターはパワー派の二人の攻撃を食らっている。ということであるハンターも攻撃的になっていたということです。

シーク「ハンター見つからない！ん？メールだ・・・トウーンリン

ク確保・・・捕まったの!？」

ハンターが見つからないうえ逃走者一人確保、時間はどんどん過ぎて行き・・・

ミッション終了まで残り10秒!

9

8

7

6

5

4

3

2

1

0!!!!

ミッション終了!

阻止できていないハンターは2体!ということ・・・

ハンター×2「分裂開始します。」

ハンターの数が一気に3体から5体に!

シーク「やばい!ハンターどこ・・・つていた!」

シークが奇跡的にハンターを発見。

その後、フォックス、マリオ、ピカチュウそれぞれがハンターに攻撃をし・・・

ピロロンピロロン！

ルイーダ「うわー！メールだ・・・なんだろう？」

メール（シーク、フォックス、マリオ、ピカチュウがハンターに攻撃を加えハンターの分裂をとめた！しかしすこし遅れたためハンターが分裂をし2体増え、さらに攻撃したためハンターがまたまたコピーをしてしまった。

残り逃走者・・・35人      ハンター1・・・天空、ファルコン  
パンチ    ハンター2・・・仕込針、ブラスター    ハンター3・・・  
でんげき、ポンプ  
以上）

マルス「うわー、5体のうち3体が技を持つてるなんて・・・逃げるのが大変そう・・・まあ僕が捕まるわけないんだけどね！」

やっとミッション1が終了。しかし次のミッションはもっと恐ろしい・・・はず！



第二ミッション・・・「ネ〜ス〜く〜ん〜ん!!!」(前書き)

久しぶりの投稿・・・

あ、あと今回もだけどあんまり題名気にしないでください。

第二ミッション・・・「ネ〜ス〜ス〜ん!!!」!

監視塔にて・・・

クレハン「次のミッションどうすんだ？」

作者「んー？あれ？まだ来てないのか、あいつ・・・」

???「ネ〜ス〜ス〜ん!!!」!

どすっ!」じやっ!」

クレハン「だれだ！俺にぶつかってきたやつ!」!

作者「あ、ゆうらじゃねーか」

ゆうら「あっ！まっきー！ネス君知らない？」

作者「居場所は知ってるけどあわてんな。先にミッションに・・・」

ゆうら「」と」と」おしえてー!」!

作者「いや、だからまてって・・・」

ゆうら「」おしえてよー!」!

こんな会話が10分続き・・・

作者「だ・か・ら！先にミッション行ってくれって！そうしたら教えてやるから！」

ゆづら「ホント？」

作者「本当だよ！！じゃあ今からミッションの内容教えるから。」

ゆづら「約束だよ！」

なんとかゆづらに内容を伝え・・・

ゆづら「それをつたえるのー？」

作者「ああ、そうだ。頼んだぞ。」

ゆづら「いつてきまーす。」

逃走場所にて・・・

ネス「さっきはあぶなかったー。ハンターと鉢合わせするなんて・・・」



裏切り者になりたい人は電話してね。制限時間は1分だよっ」

ネス「裏切り者募集か」。僕はあくまでもかわいい子だから裏切り者なんかになつたらだめだよな。」

さらつと黒いことをいうネス。その頃・・・

????? 「もしもし、はい。裏切り者になります。」

ピロロン

ピーチ「きゃっ！何事？」

メール（ついに裏切り者になった人がいるよ） あと裏切り者は通報して通報された人が捕まると+10万円だよっ じゃーねっ）

マルス「うわゝ。裏切り者に気を付けないとなー」

しかしそんな王子に忍び寄る影・・・

裏切り者「もしもし、マルスが大蛇ノ国の橋にいます。」

ハンターがマルスの捕獲に向かう！

マルス「裏切り者誰かになって！ハンター！」

ハンター「ファイアボール発射します。」

マルス「させないよ！」

マルスはファイアボールを剣でかき消した！しかし後ろからもハンターが迫る！

マルス「後ろからもハンター！？もう無理だ・・・」

ピーー

ぽんっ

マルス確保！

マルス「裏切り者の仕業か・・・」

ついに裏切り者が現れた！5体のハンターと裏切り者が居るかで逃走者たちはどんな逃走劇を見せるのか！？

作者「そろそろあれの用意するかな？」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6927x/>

---

大乱逃走中 ダイラントウソウチュウ

2011年12月11日13時49分発行